小学校

光村ポケット英語

Here We Go!

実践紹介

自律的な学習者を育成するために

小学校外国語科での主体的な学び

Vol.1 学びを見通す

豊見城市立ゆたか小学校
奥平 明香先生

LINE公式アカウント友だち募集中!
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。

光村図書

教授用資料 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

自律的な学習者を育成するために

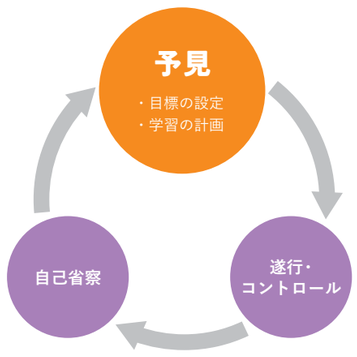
小学校外国語科での主体的な学び　Vol.1 学びを見通す



豊見城市立ゆたか小学校
教諭
奥平（おくひら） 明香（さやか） 先生

自らの学びを舵取りできる自律的な学習者の育成は、初学者を６年間という長い期間預かる小学校教師全員の願いでしょう。その自律的な学習者に欠かせないのが、学びを「自己調整」する力です。学習指導要領でも、「学びに向かう力・人間性等」のうち、「主体的に学習に取り組む態度」の要素の１つとして挙げられています。

「自らの学習を調整する」とは、具体的にはどのようなものなのでしょうか。「自己調整学習（self-regulated learning）」の提唱者であるジマーマンは、「予見、遂行・コントロール、自己省察」の３段階のサイクルを学習者自身が回せることだとしています。この自己調整学習の理論は、小学校外国語科の授業でも十分に取り入れることができます。今回は、「予見（見通し）」の段階における、私の普段の授業での取り組みをご紹介します。



樺山敏郎（2022）『個別最適な学び・協働的な学びを実現する「学びの文脈」』明治図書出版．
樺山敏郎（2024）『個別最適な学び・協働的な学びを実現する「学びの文脈」2』明治図書出版．
木村明憲（2024）『自己調整方略』明治図書出版．
白杉亮（2025）『自己調整につながる学習理論をビジュアルでまとめました』明治図書出版．
をもとに筆者作成

大切にしたいこと

学びを見通す必要性や効果を理解する

予見の段階では、目標の設定や学習の計画が主です。外国語学習の初心者である子どもたちにとって、何をどのように学べばよいのか、道しるべや方向性を知っておくことは、安心材料となるでしょう。

また、自分で目標を立てて学習を見通すことは、「外国語科ならではの学びとは何か」「学習を通してどんな自分になりたいか」を子どもたちなりに考えるきっかけにもなります。これが「初発の動機」となり、自分自身の学習を調整する効力となってほしいと願っています。

子どもたちと対話をする

では、子どもたちが自分なりの目標を立てて学びを見通すために、私たち教師は何をすべきでしょうか。

最も重要なのは、子どもたちと対話をすることです。「先生はこう思う（教科書はこう言っている）けど、あなたはどうしたい？」と子どもたち自身に問うことで、学びが自分ごとになり、「こういう学びをしたい」という意識や主体性が芽生えます。

最初から、子どもたちから豊富にアイデアが出てくることはないでしょう。ですが、継続して取り組み、教師も子どもも成功体験やうまくいかない体験を重ねることで、少しずつできるようになっていくのです。

教師の願いを共有する

私はここで、動機づけの一環として、「先生の願い」を子どもと共有しています。

外国語科は、語彙や表現といった個別の知識を増やすだけでなく、「人と人が心（考えや思い）をつなぐ」という考えが基盤となっている、コミュニケーションを学ぶ教科です。だからこそ、この時代に多言語を学んでいくことの価値や意義、喜びを、自分の言葉で子どもたちと共有したいと考えています。

6年 Unit 8　My Best Memory を例に

単元の第１時では、学びを見通すために、子どもたちと３つのことに取り組みます。

1. Story を視聴し、ゴール活動の内容を考える
2. マイ・ミッション（単元のゴールでなりたい自分像）を立てる
3. 単元計画を立てる

❶ Story を視聴し、ゴール活動の内容を考える

当時のやり取りは、以下のとおりです。

T：教科書では「話すこと（発表）」が提案されているけど、みんなはどうしたい？　何ができるようになりたい？
S1：やり取りがいいと思う。たくさんの友達とその場ですぐに話せて、楽しいから。
S2：文字に書いて伝えるのもいいな。ミニブックを作るのはどうかな。
T：じゃあ、ゴールまでに３時間あげるから、チャレンジしてみる？

子どもたちは、ただ「どうしたい？」と尋ねられても、答えづらいものです。そこで、「どんなことを話している自分になりたい？」と問いかけたり、「なりたい自分に、正しさや間違いはないよ。」と声かけをしたりしながら、単元のゴール活動を達成している姿をイメージさせることで、思考が具体的になり、主体的な発言が出やすくなります。

❷ マイ・ミッション（単元のゴールでなりたい自分像）を立てる

こちらも、初めはうまくできない子どもが多いですが、何度も経験することで少しずつ書けるようになっていきます。

❸ 単元計画を立てる

ゴールに向かってどんなふうに進むのがよいのかを、クラスのみんなで考えます。このときは、第５時に「ぐだぐだ発表会（グループ内でのリハーサル）」をしたいという声を採用し、まずはそこに向かって学びを進めていこうと合意をとりました。

最後に、ここまで考えてきた内容を第２時以降も参照できるようｅポートフォリオに書いて残します。ｅポートフォリオについては、裏面で詳しく紹介します。

おわりに

今回は、私が外国語科の学習の中で、どのように自己調整能力を育む取り組みをしているのか、「予見（見通し）」の段階を中心にお伝えしました。今後２号にかけて、「遂行・コントール」「自己省察」のそれぞれについてご紹介する予定です。

学習支援ソフトで授業をアップデートしてみませんか？

第２回

ロイロノート・スクールで作った、ポートフォリオの活用



豊見城市立ゆたか小学校　教諭　奥平（おくひら） 明香（さやか） 先生

私は、子ども一人一人の学びの記録をデジタルで蓄積し（e ポートフォリオとして残し）、振り返りができるようにしています。e ポートフォリオの作成には、ロイロノート・スクールを使っています。ロイロノート※には、発表練習の様子を撮影した動画をそのまま貼ったり、付箋のようにテキストを貼ったりする機能があるので、学びを一元管理しやすく、成長の過程を見渡しやすいというメリットがあるからです。

ここでは、6 年 Unit 8 My Best Memory を例に、私がいつも授業で使っている e ポートフォリオの型をご紹介します。

6 年 Unit 8　My Best Memory のポートフォリオ例

資質・能力に照らした単元目標。
教師が考えたものを提示しています。

単元の流れ。各時間でどんな内容に取り組むかは、子どもたちと相談しながら決めています。



「マイ・ミッション」が常に目に入るので、子どもたちは自然と「目標に立ち返って今の自分はどうか」と思考するようになり、学びの自己調整が促進されます。

各時間の振り返りや、取り組んだ活動の音声や録画記録をまとめたカード。必要に応じて、いつでも見返すことができます。

e ポートフォリオの準備は面倒かもしれませんが、まずはやってみることで、できることやできないことがわかってきます。手軽にできそうな要素から、少しずつ取り入れてみませんか。

※「ロイロノート」は、株式会社 LoiLo の登録商標です。

光村図書

教授用資料
発行者　吉田直樹
発行所　光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)
デザイン なるせよぞら

光村図書ウェブサイト
光村図書